

事業コード	H27-建-継-02		区 分	● 国庫補助 ○ 県単独
事業名	地方道路交付金事業(改築)		部局課室名	建設部 道路課
事業種別	橋梁架替		班 名	道路建設班 (tel) 018-860-2492
路線名等	主要地方道 角館六郷線		担当課長名	佐藤 和義
箇所名	大仙市中仙 斉内川橋		担当者名	田森 清美
総合計画との関連	政策コード	03	政策名	未来の交流を創り、支える観光・交通戦略
	施策コード	05	施策名	県土の骨格を形成する道路ネットワークの整備促進
	指標コード	03	施策目標(指標)名	地域間ネットワークの構築

1. 事業の概要

事業期間	H23~ H28 (6年)	総事業費	8.6億円	国庫補助率	7/10	
事業規模	○延長L=570.7m、幅員W=6.0(11.0)m、(2.50+1.25+3.00+3.00+1.25)、橋梁架替1橋L=127.5m					
事業の立案に至る背景	○主要地方道角館六郷線は、仙北市と美郷町を結ぶ主要幹線道路であり、地域間交流はもちろん周辺住民の生活に欠かせない重要な路線である。斉内川橋は、角館六郷線が斉内川を渡るためS40.11に架設された4径間単純ポステンPC単純T桁で設計荷重T-14の橋梁である。 架設後45年が経過し、上下部それぞれのコンクリートの劣化や損傷が激しく、補修・補強による対策工も検討したが、近年の交通量の増加と車両の大型化による橋への負担が大きいとの調査結果から、上流側に新たに橋を架けることにより地域住民の生活路線を確保するものである。					
事業目的	○老朽橋対策 ○重交通対応(T-14→B活荷重(T-25相当)) ○緊急輸送道路としての機能確保					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)			計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等
	事業費	707,000	707,000	857,000	150,000	
事業内容 (単位:千円)	経費内訳	工事費	639,900	797,600	157,700	
		用補費	14,000	7,800	-6,200	
	その他	53,100	51,600	-1,500		
	財源内訳	国庫補助	494,900	599,900	105,000	
		県債	201,400	244,200	42,800	
その他						
事業内容	10,700	12,900	2,200		橋梁詳細設計による増額。 詳細設計による用地買収面積の確定による減額。	
事業の進捗状況	○平成26年度末で事業進捗率63%(用地進捗率100%)。 ○平成27年11月11日 新橋供用済み。					
事業推進上の課題	特になし					
関連する計画等	○大仙市都市計画マスタープラン ○歩道新設工事(H23~伊勢堂工区、H21~畑屋工区)					
情勢の変化及び長期継続の理由	特になし					
事業効果把握の手法及び効果	指標名	橋梁長寿命化修繕計画				
	指標式	対策済み橋梁/要対策橋梁				
	指標の種類	○ 成果指標	● 業績指標	低減指標の有無	○ 有 ● 無	
	目標値 a	26.8 %		データ等の出典	道路課調べ	
	実績値 b	25.9 %		把握の時期	平成27年 4月	
達成率 b/a	96.6 %					

前回評価結果等	<input checked="" type="radio"/> 選定または継続 <input type="radio"/> 改善 <input type="radio"/> 見直し <input type="radio"/> 保留または中止
	①指摘事項
	特になし
	②指摘事項への対応
	特になし

2. 所管課の自己評価

観 点	評価の内容 (特記事項)	評 価 点
必 要 性	○現在の橋梁の劣化が激しい。(コンクリートの劣化、PC鋼材の破断) ○全幅で6.0mしかないため、大型車とのすれ違いが困難である。 ○通行規制の必要が生じた場合、長い迂回路の通行を強いられる。 ○小学校の統廃合の計画があり、当地区にも歩道設置の要望がでている。	10点
緊 急 性	○橋梁の各部分にコンクリートのひび割れや欠損がみられることや、上部工のPC鋼材の一部に破断がみられることから早急な対応が必要である。 ○橋梁長寿命化修繕計画で損傷度が最も著しいレベルと判断されている。	15点
有 効 性	○耐震化が図られることで安全な橋梁として通行できる。 ○十分な幅員が確保されることから走行性が向上する。 ○第二次救急医療施設である角館総合病院へのアクセス道路である。 ○歩道の設置により歩行者の安全が確保される。	30点
効 率 性	○上流側に新橋を架設し開通させた後に、旧橋を撤去することで仮橋にかかる経費を抑えている。 ○事業の費用便益は3.5である。 ・総費用の現在価値 9億円 ・総便益の現在価値 32億円	13点
熟 度	○新橋はH27.11.11開通した。 ○事業の進捗率は平成26年度末で63%であり、平成28年度は旧橋撤去を行う予定である。	18点
判 定	ランク (●Ⅰ ○Ⅱ ○Ⅲ)	86点
	事業は順調に進み、新橋は平成27年11月供用した。残工事は旧橋撤去であり引き続き事業を実施すべきである。	
総合評価	<input checked="" type="radio"/> 継続 <input type="radio"/> 改善して継続 <input type="radio"/> 見直し <input type="radio"/> 中止	
	事業継続は妥当である	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等 (対応方針)

引き続きコスト縮減に努めながら、事業を継続する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。

評価種別 継続箇所評価
適用基準名 道路改築事業 (地域内・生活圏交通促進)

事業コード (H27-建-継-02)
箇所名 (大仙市中仙 齊内川橋)

1. 評価内訳

観点	評価項目	細別	評価基準	配点	評価点	摘要		
必要性	道路の現状の問題	道路構造上の欠陥箇所数	3箇所以上	8	6	・設計荷重(大型車対応) ・河床低下による基礎露出		
		・車道幅員<5.5m	2箇所	6				
		・最小半径<100m	1箇所	4				
		・最急勾配>5%	0箇所	0				
		・冬期堆雪巾なし						
		道路環境上の欠陥該当項目	5件該当	7	4	・コンクリート剥落、鉄筋露出 ・歩道なし		
		・現道の混雑度≥1.0	4件該当	6				
		・現道の旅行速度≤30km/h	3件該当	5				
		・現道の事故率≥50件	2件該当	4				
		・通学路指定で歩道なし	1件該当	2				
		・重大交通事故が発生	該当項目なし	0				
		計		15	10	計 2箇所		
		緊急性	道路をとりまく環境等	関連事業の有無	あり	10	10	地方交付金工事 (交通安全) 伊勢堂工区、畑屋工区
				・県の主要プロジェクト	あり	0		
				・地域振興プロジェクト ・ほ場整備等の他事業				
緊急度の高い課題の有無	あり			5	5	老朽橋		
老朽橋、災害危険箇所、 冬期通行不能区間等	なし			0				
計		15	15					
有効性	道路の位置づけ	生活圏30分形成道路等	該当する	7	7			
		該当しない	0					
		救急医療施設へのアクセス道路	該当する	7	7			
		該当しない	0					
		地域防災計画画上重要な道路	該当する	7	7	第二次緊急輸送道路		
		該当しない	0					
		社会変化による事業の必要性	必要性が高い	9	9	供用制限となった場合、大きな迂回が発生する。		
		低下傾向	6					
必要性が低い	3							
計		30	30					
効率性	事業の投資効果等	費用便益比 (B/C)	1.0以上	5	5	B/C=3.5		
		1.0未満	0					
		計画交通量	5,000台/日以上	5	3	4,900台/日		
		1,000台/日以上~5,000台/日未満	3					
		1000台/日未満	0					
		コスト削減	あり	5	0			
		なし	0					
		事業中止による影響	既投資額の損失大	5	5	etc 大規模なインフラ etc 部分的なインフラ etc 現道拡張		
既投資額の部分的損失	4							
既投資額の損失が少ない	3							
計		20	13					
熟度	事業の進捗状況	事業の進捗 (事業費)	8割以上完了	10	8	進捗率63%		
			5割以上完了	8				
			1割以上完了	5				
			1割未満	2				
			未着手	0				
		用地買収の進捗 (面積)	8割以上完了	10	10	進捗率100%		
			5割以上完了	8				
			1割以上完了	5				
			1割未満	2				
			未着手	0				
計		20	18					
合計				100	86			

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
I	優先度がかなり高い	80点以上	I	
II	優先度が高い	60点以上~80点未満		
III	優先度が低い	60点未満		